

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K00765

研究課題名(和文)「孤育て」を解消する祖父母力醸成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of grandparent empowerment program to eliminate "Isolated childcare"

研究代表者

柏 まり (Kashiwa, Mari)

佛教大学・教育学部・教授

研究者番号：30373145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、子育て家庭が抱える育児支援の現状と課題を顕在化するとともに、子育て家庭を支える共助的支援の担い手として祖父母が育児場面で活躍できる「祖父母力醸成プログラム」を開発するものである。具体的には、子育て中の父親・母親と祖父母との世代間格差として顕在化された問題点から、世代間格差是正に向けた研修プログラムを開発した。特筆すべきは、祖父母世代間の交流や情報交換をプログラムに取り入れ、祖父母同士が繋がる機会をつくった点があげられる。開発されたプログラムを活用し、祖父母を対象とした研修会を通して、祖父母同士が交流することで子育て共助者としての役割を再認識する機会となることが確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ワーク・ライフ・バランスの重要性が高まり、ますますその必要性が増すと予想される子育て支援対策の中でも祖父母の育児支援に焦点化し、祖父母を対象とした育児支援の現状と課題を顕在化したことは、子育て家庭支援教育及び幼児教育保育分野における学術的にも有用と考える。また、研究成果として祖父母参加型の「祖父母力醸成プログラム」を開発し、研修プログラムを実施できたことは社会的意義があるといえる。開発された研修プログラムを導入することで、子育て家庭と祖父母の関係を繋ぎ子育て家庭を支える共助的支援の担い手として祖父母が育児場面で活躍できることは子育ての社会化を実現するための一助となると考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the current situation and problems of child-rearing families, and to develop a "grandparent empowerment program" so that grandparents play an active role as supporters of child-rearing families. Specifically, we developed a training program to correct the generational gap between fathers/mother and grandparents during child-rearing. This training program is characterized by the fact that it created an opportunity for grandparents to connect with each other by incorporating content that allows the grandparents to interact and exchange information. It was confirmed that by utilizing the developed program and holding workshops for grandparents, it would be an opportunity for grandparents to reaffirm their role as co-helpers in raising children.

研究分野：幼児教育・保育学

キーワード：子育て 祖父母 支援プログラム

### 1. 研究開始当初の背景

少子高齢化を迎えている今日、女性と男性がともに社会に参画し、性別にとらわれることなくいきいきと充実した人生を送ることができる男女共同参画社会を築くことが重要な国民的な課題となっている。平成16年に男女共同参画会議の下に設置された「少子化と男女共同参画に関する専門調査会」において、仕事と家庭の両立支援や働き方の見直しなどが、男女共同参画の推進と少子化対策の両方にとって重要であることが確認され、平成19年にはすべての人を対象にした「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」・「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が策定されたところである。特に少子化の観点から、子育て世代の両立支援に特化するならば、子育て期の女性の社会進出を推進することが重要となってくる。

しかし、わが国においては共働き家庭であっても子育てに係る負担の大部分を母親が担っているという実情がある。父親の育児参加の促進率(令和2年度12.65%)は上昇傾向にあるものの、厚生労働省が示している令和2年度目標値(13%)、令和7年度目標値(30%)と、いずれも目標値には届いていない。従来の子育て支援策は、母親支援及び父親の育児参加の推進など子育て家庭への支援が主流である。実際には父親の就労状況は厳しく、家庭内の努力だけでは母親の孤立化や育児負担の問題は解消されていない。家庭内での育児に係るバランスが取れていないことが「孤育て」の要因となっており、児童虐待の一因となっているとの指摘がある。

子育て家庭を支える共助的支援の担い手として子育て家庭と祖父母の関係を繋ぎ、祖父母が育児場面で活躍できる「祖父母力醸成プログラム」を開発することは、子育ての社会化が求められる今日の喫緊の課題であり「孤育て」解消への一助となるものである。

### 2. 研究の目的

本研究では、子育て家庭における父親・母親と祖父母との育児に係る実情をワーク・ライフ・バランスの観点から明らかにし、祖父母の育児支援が推進されるような子育て支援施策の検討を行うものである。多様な子育て支援策の中でも祖父母を対象とした支援策に特化し、祖父母の育児支援の現状と課題の顕在化を試みるものである。また、子育てにおける世代間格差を是正するための祖父母支援の講座や祖父母力が発揮できる世代間交流を中核とした、「祖父母力醸成プログラム」の開発を目指す。具体的には、以下の3つの目的を設定し、研究を進めることとする。

#### (1) 子育て家庭と社会とを繋ぐ保育施設の役割の顕在化

本研究の目的は、子育て家庭と社会とをつなぐ保育施設に役割を顕在化するための手掛かりとして、子育て家庭における保護者への質問紙調査から、保育施設に求められる支援ニーズを明らかにする。柏・岩佐・佐藤(2017)が開発した「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度」を用いて、子どもの育ちに影響を与える3つの観点に着目し、子育て家庭が抱える支援ニーズと育児ソーシャル・サポートとの関連について明らかにする。

#### (2) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の検討

研究(1)の結果から、保育施設に求められる育児ソーシャル・サポートは、親の育児感情を健全化し、親子や夫婦関係といった家族関係を良好に保つことが示唆される。子育てを社会全体でサポートする上で、保育施設は子育てにおける夫婦関係の大切さを伝えると共に、子育て家庭を支える共助的支援の担い手として子育て家庭と祖父母の関係を繋ぎ、家族関係の媒介となる支援を模索することが求められる。

本研究の目的は、地域子育て支援拠点を対象とした質問紙調査を通して、祖父母参加型子育て支援の取り組みに関する現状と課題について把握することである。本研究では、親子や夫婦関係を基盤とした子育て支援のあり方や子育て家庭と社会のつながりについて検討し、孤育て解消を目指す取り組みとして、祖父母参加型子育て支援に着目する。本研究を手がかりとして、子育て支援拠点施設と大学教員とが協働した「祖父母力醸成プログラム」の内容を検討する。

#### (3) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の開発

本研究の目的は、子育て家庭を支える共助的支援の担い手として、子育て家庭と祖父母の関係を繋ぐ祖父母参加型子育て支援プログラムを開発することである。具体的には、研究の目的(2)で把握された子育て中の父親・母親と祖父母との世代間格差として顕在化された問題点から、世代間格差は正に向けた研修プログラムを開発する。本研究を通して、孤育て解消を目指した祖父母参加型子育て支援プログラムを提示することにより、子育て家庭と祖父母との世代間格差是正のための支援の方向性を示すための一助となるものと考えられる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 子育て家庭と社会とを繋ぐ保育施設の役割の顕在化

本研究の方法は、子育て家庭における保護者への質問紙調査を行い、柏・岩佐・佐藤(2016)が開発した「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度」を用いて子どもの育ちに影響を与える3つの観点に着目し、子育て家庭に内在する支援ニーズの特徴を把握する。子どもの育

ちに影響を与える3つの観点は、育児感情、親子関係、夫婦関係、である。研究結果から、保育施設が子育て支援の拠点となることで子育て家庭と祖父母との関係を繋ぐために求められる子育て支援プログラムの検討をすすめる。

(2) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の検討

本研究の方法は、0県内の地域子育て支援拠点施設176拠点を対象に、郵送にて質問紙調査を試みる。具体的には、次の～の項目に関する回答から、地域子育て支援拠点における祖父母参加型子育て支援の取り組みに関する現状と課題を把握する。

- 子育て支援拠点施設の属性
- 祖父母参加型子育て支援の実施状況
- 祖父母による子育て支援の必要性
- 祖父母参加型子育て支援を実施する上での課題
- 祖父母参加型子育て支援を実施する上で必要なこと

第二に、質問紙調査で得られた祖父母参加型子育て支援に関する困難性を明らかにするために、得られた自由記述内容を分析対象として、テキストマイニングの手法であるKH coder(樋口, 2004)を用いて内容分析を試みる。分析の手順は、次の～のとおりである。

祖父母参加型支援を実施する上での困難性として得られた自由記述内容をテキストデータとして変換する。

表記ゆれや同様の意味で使われていると読み取ることのできる言葉については、同じ単語としてカウントされるように修正する。

修正を加えたテキストを単語の単位に区切り、品詞の判別を行う。

単語と単語の結びつきを探るために、共起ネットワーク分析を行う。

(3) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の開発

研究結果から顕在化された世代間格差に関する課題解決を目指し、祖父母力醸成に関するQ&A及び子育て家庭と祖父母を繋ぐ「祖父母力醸成プログラム」の作成を試みる。研修プログラムは、子育てに関する世代間の認識の違いを是正することを目的として、専門スタッフとの研修及びディスカッションを通して、具体的な支援内容について検討を試みる。

4. 研究成果

(1) 子育て家庭と社会とを繋ぐ保育施設の役割の顕在化

A県内地域子育て支援拠点施設を対象とした祖父母の育児支援の実情を把握する調査を実施し、課題の顕在化を試みた。A県内における地域子育て拠点施設176拠点を対象に実施した調査(回収率31.3%)において、祖父母参加型の子育て支援事業を実施している支援拠点は、約14.5%であり、今後予定している施設を含めても祖父母参加型の子育て支援事業は低調であることが明らかとなった。一方、祖父母による子育て支援の必要性については、「とても必要」29.2%、「やや必要」41.7%、「どちらでもない」29.2%、「あまり必要ない」、「全く必要ない」は共に0%であり、子育て支援拠点における祖父母参加型の子育て支援事業に関する必要性と実施状況には乖離が生じていることが顕在化された。子育て支援拠点における祖父母参加型の子育て支援事業を実施する上での困難性については、祖父母の参加の困難性、子育て支援拠点スタッフの専門知識や技術の習得の難しさが関連していることが明らかとなった。

(2) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の検討

0県内の地域子育て支援拠点施設176拠点を対象に、郵送にて質問紙調査を実施した。有効回答は55施設で、回収率は31.25%であった。祖父母参加型子育て支援の実施状況は、「祖父母支援を行っていない」と回答した拠点施設が72.7%と最も多く、祖父母支援を行っている支援拠点は、今後予定している施設を含めても祖父母参加型の子育て支援は低調であることが明らかとなった。その一方で、祖父母による子育て支援の必要性は、「とても必要」29.2%、「やや必要」41.7%と半数以上が回答しているものの、必要性と実施の間には乖離があることが顕在化した。

祖父母参加型子育て支援を実施する上での課題について、「とても必要」、「やや必要」が50%を越える回答が得られた項目は、「祖父母支援に関する技術や専門知識が十分ではない」、「関係機関との連携が十分ではない」、「参加人数が少ない」の3項目であった。結果の詳細は、図1のとおりである。

祖父母参加型子育て支援を実施するには、設備やスタッフの数よりも専門的知識や地域の関係機関との連携が課題となることが示唆された。また、祖父母参加型

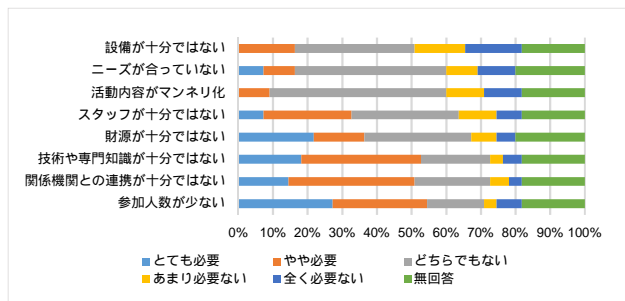


図1：祖父母参加型子育て支援を実施する上での課題

子育て支援を実施する上で必要なことは、「子育て支援活動提供者のための講習会への参加」、「助成制度の充実」、「支援団体同士のネットワークづくり」、「利用者側の希望やニーズに関する情報の収集」に関する4項目が、60%を越える支援拠点のニーズとして把握された。結果の詳細は、図2のとおりである。

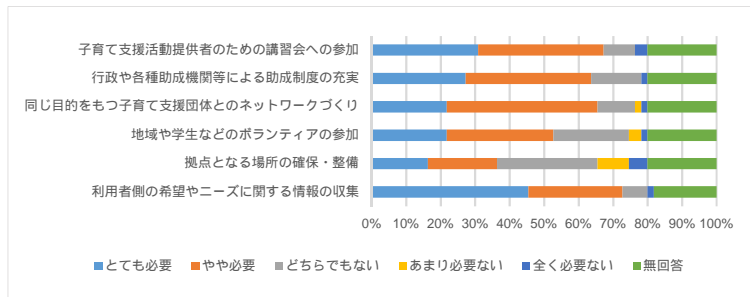


図2：祖父母参加型子育て支援を実施する上で必要となること

質問紙調査で得られた祖父母参加型子育て支援に関する困難性を明らかにするために、得られた自由記述内容を分析対象として、テキストマイニングの手法であるKH coder（樋口，2004）を用いて内容分析を試みた結果は、図3のとおりである。具体的には、祖父母参加型子育て支援の困難性と関係が最も強い項目は「参加」であった。また、「参加」と関係が強い項目には「運転」、「車」、「手段」といった交通に関連する項目と、「家庭」、「多く」、「求める」という子育て支援への参加を求める項目との関連性が示唆された。さらに、子育て支援スタッフが抱える困難性としては、「専門」、「知識」、「技術」とった祖父母支援に関する知識や技術に関する情報収集に関するニーズがあり、祖父母参加型支援を実施するための困難性と関連がみられた。

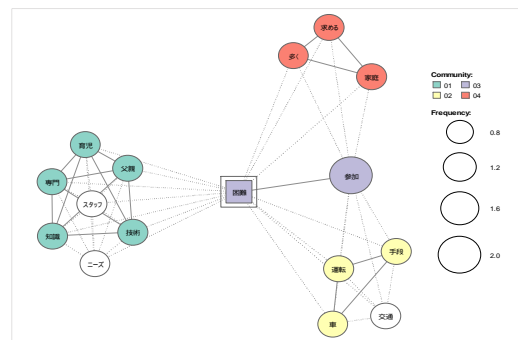


図3：祖父母支援の困難性に関する共起ネットワーク

(3) 子育て家庭と地域をつなぐ「祖父母力醸成プログラム」の開発

本研究は、子育て家庭を支える共助的支援の担い手として祖父母の育児支援に焦点化し、祖父母を対象とした育児支援の現状と課題を顕在化するとともに、子育て家庭と祖父母の関係を繋ぐ祖父母参加型子育て支援を可能とする「祖父母力醸成プログラム」を開発することを目的とした。具体的には、子育て中の父親・母親と祖父母との世代間格差として顕在化された問題点から、世代間格差は正に向けた研修プログラムを開発することができた。開発された研修プログラムにおいて特筆すべき内容として、祖父母世代間の交流や情報交換をプログラムに取り入れ、祖父母同士が繋がる機会をつくった点があげられる。開発されたプログラムを活用し、祖父母を対象とした研修会を通して、祖父母同士が交流することで子育て共助者としての役割を再認識する機会となることが示唆された。

研究成果として、子育て家庭と祖父母の関係を繋ぐ祖父母参加型子育て支援を可能とする「祖父母力醸成プログラム」に関するリーフレットを作成することができた。具体的プログラムの内容は、子育ての世代間格差是正のための子育て・孫育てに関するQ&A、祖父母世代間の交流の機会をつくるワークシート、祖父母力醸成のための孫育て知識に関する情報、の3項目を踏まえたものである。作成したリーフレットは、関係の保育施設と保育者等に配布している。「子育て支援：孫育て編 子育て・孫育ておたすけBOOK」の一部を資料1に示した。

【資料1】



【引用・参考文献】

- ・ 柏女霊峰 (2003) 『子育て支援と保育者の役割』, フレーベル館, 28-29.
- ・ 柏女霊峰 (2017) 「これからの子ども・子育て支援を考える 共生社会の創出をめざして」, ミネルヴァ書房, 113-115.
- ・ 樋口耕一 (2004) 「テキスト型データの計量的分析 - 2つのアプローチの峻別と統合 -」, 理論

と方法, 19(1), 101-115.

・柏まり, 岩佐和典, 佐藤和順 (2016) 「保育施設を拠点とした育児ソーシャル・サポート尺度の開発」, 岡山県立大学保健福祉学部紀要, 23(1), 33-39.

・柏まり, 佐藤和順 (2018) 「育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性 - 幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして - 」, 保育学研究, 56(2), 99-110.

・柏まり, 佐藤和順 (2022) 「子育て家庭と地域をつなぐ祖父母参加型子育て支援に関する検討」, 教育学部論集, 33, 115-124.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 柏まり・佐藤和順	4. 巻 33
2. 論文標題 子育て家庭と地域をつなぐ祖父母参加型子育て支援に関する検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育学部論集	6. 最初と最後の頁 115-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐藤和順・柏まり・尾上祥子	4. 巻 65
2. 論文標題 保護者の子育ての肯定的感情を高める保育者の資質・能力-養成段階での取組に着目して-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柏まり・佐藤和順	4. 巻 第56巻2号
2. 論文標題 育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性 - 幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 99 - 110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 柏まり・佐藤和順	4. 巻 第26号
2. 論文標題 具体的な行動例示による教師の行動変容に関する研究 「積極的なかわり」を視点として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 乳幼児教育学研究	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柏まり・佐藤和順
2. 発表標題 孤育て解消を目指した祖父母参加型子育て支援プログラムの開発
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 佐藤和順・柏まり・尾山祥子
2. 発表標題 保護者の子育てでの肯定的感情を高める保育者の資質・能力 養成段階での取組に着目して
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 柏まり・佐藤和順
2. 発表標題 「保育施設を拠点とした 育児ソーシャル・サポート尺度を用いた子育て支援の可能性」
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

佛敎大学研究者データベース  
[https://b-net.bukkyo-u.ac.jp/gyoseki/japanese/researchersHtml/057109/057109\\_Researcher.html](https://b-net.bukkyo-u.ac.jp/gyoseki/japanese/researchersHtml/057109/057109_Researcher.html)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	佐藤 和順  (Sato Kazuyuki)  (10413436)	佛教大学・教育学部・教授     (34314)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関